

令和7年度 第1回 鬼北町学校適正規模・適正配置検討委員会 議事概要

日 時：令和7年8月20日（水曜日） 18時30分から19時26分まで

場 所：近永公民館 2階 講堂

出席者：委員 20 人（5 人欠席）、教育長、教育課長、教育課長補佐兼学校教育係長

- 1 開会
- 2 あいさつ 鬼北町教育委員会教育長 行定 洋嗣
- 3 委嘱状交付
- 4 委員紹介
- 5 委員長及び副委員長の選出
委員長：大柴博之委員 副委員長：山田真理委員 選出
- 6 諮問
- 7 議事

会議等の公開是非

会議は非公開とし、会議資料は鬼北町ホームページで公開することを決定した。

また、発言者の氏名を非公開とし、要点をまとめた議事概要を鬼北町ホームページで公開することも決定した。

なお、委員会の開催の都度、議員全員協議会において事務局が概要を報告することについて承諾を得た。

(1) 鬼北町学校適正規模・適正配置検討委員会について

【鬼北町学校適正規模・適正配置検討委員会について】を説明

(2) 小規模な学校のメリット・デメリット、規模が大きくなった場合のメリット・デメリットについて

【小規模な学校のメリット・デメリット、規模が大きくなった場合のメリット・デメリットについて】を説明

(3) 今後の児童数・生徒数の推移について

【鬼北町 児童数・生徒数の推移一覧表（令和7年8月1日時点）】を説明

(4) 保護者アンケート結果について

【学校適正規模・適正配置に係る保護者アンケート回収率】、【「学校適正規模・適正配置検討委員会に係る保護者アンケート」集計表】を説明

【質疑応答】

■委員

アンケート回収率の回収数とアンケート集計表の回答数が違うのはなぜか。校区外も含まれているからなのか。

□事務局

アンケート集計表には就学前、小学生、中学生の数が含まれており、アンケート回収率の合計の数字とは同じである。校区外については通っている学校の地区をお住いの地区として回答してもらっている。

■委員

アンケート集計表の集計の考え方はアンケートを送付した家庭に小学生が2人、中学生が1人いたとしたら一家庭が3回分同じ質問に答えているということか。また、11ページの表は就学前の子どもがいる家庭がどのように考えているのかということを出したのか。

□事務局

例えば小学生に2人、中学生に1人の子どもがいる家庭については小学生で1回、中学生で1回の集計としている。11ページの表についてはそのとおりであり、就学前、小学生、中学生の子どもがいる家庭がそれぞれどのように考えているか分析として提示したく作成した。

■委員

国の方針で学校の統合関係について方向性が出ているのか。また、期限はあるのか。

□事務局

平成27年1月に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」が文部科学省から出されている。期限はない。

■委員

鬼北町では過去に2回検討委員会がされているが、2回とも再検討、先送りにするという結論が出ている。前回の答申の中に「無駄を避けるため、具体的な統廃合の計画が策定されるまでの間は学校の大規模な改修は凍結し、必要最小限の修繕に止めることが望ましい。」と入っており、そのまま先送りにするようなことがあると改修するようなことが必要となった時にできない、足枷になってしまうのではないか。アンケートの結果を見ると統合を検討すると言った項目も多く出ているが、ここで再度先送りするという曖昧な結論にするのではなく、今回の委員会の開催中に一定の方向性を出すことが望ましいと思うが、町としてもその考えなのか。

□事務局

今日の説明を受けて、今後、地域や学校、PTA等で話の場をもっていただき、その場で出た意見を持ち寄っていただき、それらを検討委員会で委員長を中心にまとめて教育委員会に答申する。その答申を受けて、教育委員会としての方針を立てていく流れになるので、事務局としてはこの場で申し上げる段階ではない。

■委員

諮問に対する答申の期限的なものはあるか。

□事務局

答申については特に明確な期限を設けていない。持ち帰っていただき、各団体で協議いただいた結果により答申の進み具合も変わってくると思うが、重要な話になるのである程度念入りに協議をしたいと考えている。

■委員

地域や学校、PTAは今後、協議の場を持つことができるが、未就学時の家庭はどのように検討し意見を吸い上げていくのか。保護者会長は委員に入っているが、所長が委員に入っていないため、どのような考えなのか。

□事務局

委員に町内3つの保育園、認定こども園の保護者会長に入ってもらっている。保護者会長に意見をまとめていただきたいと考えている。

【意見】

■委員

十数年前、生徒指導上問題がある子どもを鬼北町内のA校が受け入れた。地域や学校の関わりにより健全な生活を送ることができ、卒業時には「もっと早くA校に来たかった」と涙を流したそうである。そういった事例もあることから、子どもたちにとって最善の教育や活動ができるよう協議を行っていただきたい。

■委員

農協も今、県1JA構想ということで愛媛県下の農協が一緒になる。愛治支所の農協もすでになくなった。こういう風に事業再編で人も減るが経営形態も変わってくる現状にある。昭和42年に近永西小学校が近永小学校に統合した。その時には今回のようにアンケートをしたかどうか知り得ないが、国の方針でやったのだと思うが、結果的に507名の児童数となった。そういうことを過去にやってきた一つの実績があるので、今回統合の話も結構でているので、前向きに検討しているのだろうと考えているが、今後その辺の話を十二分にお聞かせ願いたい。

■委員

地域に持ち帰って具体的に話すことをしたとしても、意見が分かれるので話をまとめるのは中々難しいと思う。それぞれの地域だけを考えてもいけないし、町全体で考えないといけないので意見がまとまりにくいと思うが、じっくり協議し次回の場で発言したい。個人的な意見では先延ばしをすると非常に苦しいと思う。

■委員

今、スポーツを通じて、鬼北町内にソフトボールのジュニアチームが出来ているが、それこそ今の統合の姿だと思う。統合すればみんなが集まり良い学校になると思う。それが現実に出てくる。これも教育の一環と思うので、子どもたちも一生懸命練習し、全国レベルの大会にも出ている話を聞いている。みんなが集まりその中で連帯感をもってやっていけるのが雛形になると思う。

8 その他

・今後のスケジュールについて

次回の委員会を11月に開催予定。

9 閉会